

〈解答〉

- ① (1) ①：北陸 ②：エ  
(2) ア  
(3) ウ  
(4) ①：伝統 ②：地場  
(5) C：エ D：イ

配点 ①(2), (3)は各2点, 他は各1点 10点満点

〈解説〉

- ① (1) 中部地方をさらに細かく区分すると、北陸（新潟県、富山県、石川県、福井県）、中央高地（長野県、山梨県、岐阜県の北部）、東海（静岡県、愛知県、岐阜県の南部）の三つに区分される。
- (2) 茶は、気候が温暖で霜がおろることが少なく、日あたりと水はけの良い場所が栽培に適している。こうした特徴をもつAの静岡県の牧ノ原や磐田原などの台地では明治時代から茶の栽培が盛んになった。いちごは栃木県、らっきょうは鹿児島県、すいかは熊本県が最も生産量が多い（2017年）。
- (3) 1980年と2012年の化学工業を比べると、総生産額に占める割合は低下しているが、生産額は増加している。
- (4) 冬になると雪におおわれる北陸では、副業から発達した伝統的工芸品づくりが盛んである。地域の中小資本が集まって特定の産物をつくり、それが全国的・世界的に広い市場をもつようになったものが地場産業である。その中でも特に、江戸時代ころから代々受け継がれた方法で製品がつくられるものを伝統産業といい、さらにその中で、経済産業省の指定を受けたものが伝統的工芸品を名乗ることができる。
- (5) ア、エは漁業生産量が少ないことから、内陸県のBかCである。このうち、1月・8月ともに降水量が少なく、中央高地〔内陸性〕の気候の特徴がよく表れているアがBの長野県であり、エがCの岐阜県である。Dは富山県で、日本海側の気候に属するため、1月の降水量が8月の降水量よりも多いイ、Aは静岡県で、漁業生産量が最も多いウである。